日根小だより



令和８年１１月１０日
泉佐野市日根野１６８４
泉佐野市立日根野小学校
校長室
TEL072-468-0789

錦秋の候、保護者の皆様や校区の皆様には、ご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は本校の教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

ようやく秋の訪れを感じられると思ったら、雨で湿度が高かったり晴天で真夏日まで気温が上がったりと１０月は、いつまでも残る暑さと朝夕の寒暖差を感じる日々でした。体調を崩すことがありませんよう、ご自愛いただきたいと思います。しかし、１１月になり日没の時刻は確実に早まっており、暗くなる前に帰宅するよう、子どもたちには気を付けて行動してもらいたいと思います。

さて、運動会が１学期に終わっていますので、この時期がぽっかりと穴が開いたようになっては困ると心配しました。しかしこの時期にも学年ごとに様々な行事がありましたので、それぞれで充実した学びができました。４年生はスケート体験、５年生は稲刈り体験や宿泊学習、１年生は地域の方との昔遊び体験、６年生は修学旅行、１～４年生が遠足、全校児童で（午前と午後にわかれましたが）芸術鑑賞会等。さらにゲストティーチャーをお招きしての出前授業や、３年生は連合音楽会出場、佐野支援学校との交流も複数の学年で計画があります。これらのとりくみから多くの人と出会い、協力や団結、また助けたり助けてもらったりという実体験を通して、感じ、考え、学んでいくことになります。いろんなことを経験する度に、心も体も成長していく子どもたちを温かく見守っていただきますよう、ご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

《今後の予定とお知らせ》

・１１月１０日（火）１年生研究授業　１年生以外１３:００下校
・１１月１１日（水）職員研修のため １３:００ 下校
・１１月１６日（月）３年生　花いっぱいプロジェクト（地域の方と）１０:４５～
・１１月１７日（火）５年生研究授業　５年生以外１３:００下校
・１１月２８日（土）土曜授業　人権参観



*予定は変更になる可能性があります。
学年だより等で確認願います。

【研究コーナー】《 3年生の研究授業 》

3年生では、算数の「あまりのあるわり算」の単元で研究授業を実施しました。1学期にあまりのないわり算を学習し、本単元はその学習の発展という位置づけです。

研究授業までに、あまりの意味、計算のしかた、答えの確かめなどの学習をしました。文章題では、聞かれていること、大事な数字や単位を確認し、どのように答えていくとよいか考えていきました。今までの多くの文章題は「○○個」など、一言で答えられる答えでしたが、「○○人に分けられて、○○個あまる」のような答え方にも慣れる練習をしました。

研究授業では、「あまりをどうするか考えよう」というめあてで、あまりの扱いについて考えました。

> ケーキが１４こあります。１箱に４このケーキを入れていきます。
> 全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。

上記のような問題で、答えが「3箱あまり2こ」ではなく、「4箱」になることについて考えました。クロムブックを用いて、友だちと意見を共有したり、実際にケーキが箱に入っていく様子を見たりして、問題の答えは、商に1を足さないといけないと理解していきました。

また、研究授業の次の算数の時間には、別のあまりの扱いについて考えました。

> タイヤを４こ使って、おもちゃの車を作ります。
> タイヤは３０こあります。車は何台作れますか。

この問題では、あまりは2となりますが、タイヤが2個では車は作れないので、問題の答えとしては、「7台」となります。

あまりのあるわり算の文章題はいろいろな問題のパターンがありますので、今までよりも一層、問題をよく読み、問題の場面をイメージできるように、これからも練習していきたいと思います。

【生徒指導コーナー】 《 ごめんね。ありがとう。 》

10月の生活重点目標は「『ごめんね。ありがとう。』を言えるようになろう。」です。集団生活において、様々な出来事が起こります。何かしてもらえたら『ありがとう』。わざとでなくても何かしてしまった、そんな時には『ごめんね』を言えることが大切です。思っているだけでなく、相手に伝わるように声に出し、よりよい人間関係を築いていってほしいと願います。

10月　いじめの授業

日根野小学校では毎学期、いじめに関する授業を行い、いじめの未然防止に努めています。1～3年生は、10月に外部講師をお招きし、セカンドステップの授業を実施しました。1年生は『同じ気持ち・違う気持ち』、2年生は『うっかりとわざと』、3年生は、『問題解決ステップ』というテーマに取り組み、それぞれのテーマに沿ってロールプレイを行い、どんなことができるかを確かめました。

※セカンドステップとは・・・

登場人物の気持ちを考えたり、ロールプレイを通して、自分だったらどうするかを考えたりすることで、アンガーマネジメント（怒りの感情を上手くコントロールするスキル）を含めた気持ちをコントロールをする方法を学ぶことです。

【人権コーナー】《 6年生修学旅行 》

81年前に原爆が投下された広島の地を実際に歩き、見て、聞いて、原爆被害の大きさ、怖さを感じつつ、平和の尊さに気付いた修学旅行となりました。

平和記念公園の原爆の子の像の前で、原爆で亡くなった方たちへの追悼の気持ちを込めて慰霊祭（追悼式）を行いました。平和への誓いの言葉、歌、日根野小学校の全校児童で作った千羽鶴を捧げました。

また、無残な姿で今も戦争のむごさを伝える原爆ドームや、生きたかったのに夢も果たせず死を迎えてしまった方たちの、命や生活に関する物がたくさん展示されている平和記念資料館も見学しました。広島にいた方たちの命を一瞬で奪い、街を焼き尽くしてしまった原爆の恐ろしさを感じたようです。聞き取り学習では、原爆投下時、7歳だった被爆体験者の方からお話を聞くことができました。原爆投下後の悲惨な状況、その中でたくましく生き、色々な目標をもって頑張ってこられた力強いお話を聞くことができました。子どもたちも一生懸命お話を聞き、平和のために自分はこれからどうしていくかと、考えるきっかけになったと思います。



【スマイルコーナー】《スマイルの合科》

スマイルでは、9月8日（火）と15日（火）の3時間目にお月見のイベントをしました。初めにお月見にちなんだお話を聞いて、お月見クイズをしたり月の歌を歌ったりしました。各クラスに分かれてお月見に関係のあるものを作った後、スマイルのみんなで一つのお月見の掲示物を完成させました。全校児童が見やすいように職員室横の廊下に貼り出しました。力を合わせて作った大きなお月見の飾りが見事に出来上がって、みんな嬉しそうに何度も廊下で見ていました。

9月29日（火）の合科では、2学期からスマイルに仲間入りしたお友だちの紹介がありました。元気よくあいさつをした後、7つのチームに分かれてゲームを行いました。初めはボール渡しでした。各チーム、座ったままでボールを後ろのお友だちに渡していくのですが、横から渡したり、頭の上から渡したりと、とにかく落とさないように真剣に取り組みました。次に新聞紙をお腹に張り付かせて走り、コーンをまわって戻るというゲームをしました。スピードが落ちると新聞紙が床に落ちてしまうので、ワーワー言いながらも体育館の中を元気に走り回りました。最後は、コグトレ棒2本で風船をはさんでコーンを回って戻るゲームでした。2本の棒で風船が割れないように工夫しながら、さらに落とさず、しかも速くボールを運ぶようにがんばっていました。どのゲームも競争ではありません。みんなでとにかく楽しく、ゲームに挑戦しました。





２年生　日根野公民館・図書館へ行ってきました

2年生は、9月29日（火）に、生活科の町探検の学習で地域にある日根野公民館・図書館へ見学に行きました。

子どもたちの中には、これまでに利用したことがある児童も多く、「本を借りに来たことがある！」「家族と来たことがある！」など、親しみを感じている様子でした。一方で、普段利用していても知らなかったことも多く、館長さんから施設の役割や利用の仕方、そこで働く方々の仕事について説明していただくと、子どもたちは興味津々に話を聞いていました。



見学をする中で、「もっと知りたい。」「これはどうしてだろう。」と、さまざまな疑問も生まれました。学校に戻ってから、見学して分かったことを振り返りながら、一人ひとりが館長さんに聞いてみたいことをまとめます。考えた質問は後日、館長さんにお送りし、回答をいただく予定です。

今回の町探検を通して、身近な公民館・図書館で新たな発見をするとともに、地域の施設やそこで働く方々への関心を深めることができました。これからも、地域の「すてき」や「ひみつ」をたくさん見つけていきたいと思います。

４年生　アイススケート体験

アイススケート体験に行ってきました。普段とは違うつるつると滑るリンクに足を踏み入れた子どもたちは、緊張した表情とドキドキした様子で、慎重に練習していました。

スケート靴を履いてスケートリンクに立ったものの、はじめはなかなか壁の手すりから手を離せなかったり、思うように体が動かずに何度も転んでしまったりする児童も多くみられました。しかし、決してあきらめずにどうすれば上手く滑れるのかと、試行錯誤を重ねていました。すると、 最初は上手に滑れなかった子どもたちが、みるみるコツを掴み、練習を繰り返すうちにだんだんとバランスがとれるようになり、最後には自信に満ちた表情で滑れるようになってきました。

アイススケートという非日常の体験を通して、「出来なかったことが頑張れば出来るようになる」と確信し、大きな自信に繋がったことと思います。



今回の体験からの学び、「あきらめない」ことや「チャレンジし続ける大切さ」を、これからの学校生活に生かしていきたいと考えています。